

Principal Correspondence

夢を持ちましょう



明けましておめでとうございます。
2024 年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますように、
心から祈念申し上げます。

リリーベール小学校も開校して 21 年目を迎えます。

「現代の子どもたちに欠けているものは何だろう。」
「どうしたら次の時代を切り拓くような人材を育成で
きるだろう。」と考えて、創立された小学校・・・



昭和 24 年、一人の女性が教育を志しました。
戦後モンペをはいていた時代です。

片道 4 時間かけて水戸から東京代々木の文化服装学院(現文化女子
大学)へ通い、物を売ることより、その技術を活かし広めたいという方
向を志したのが、(白百合を英語にして)リリー洋裁研究所という塾の
はじまりでした。

創立者大久保久子 24 歳のときの話です。

それから 73 年
リリー文化服装学院は文化デザイナー学院と名も変わり、リリーこども
&スポーツ専門学校、幼稚園、保育園、小学校等々と教育のフィールド
は広がってきました。

共通するのは、
創立の時の「時代に欠けているものを補いたい。」「社会に新しい価値を創造したい。」という
思いだったと思います。
よってリリーは専門学校でも幼稚園でも、保育園でも小学校も必ず、「ひとあじ」違う教育をし
ていると思います。

初代学園長は必ずしも天才や秀才ではなくとも、決してあきらめずに、こつこつとがんばれば、
いつしか夢はかなうことを実証してくれました。
皆様にとっては何でしょう？

今年は思い切って「新しい夢」に向かって第一歩を踏み出してみましよう。

いくつになっても遅いことはありません。

小さな一歩でも積み重なれば大きな進歩となることでしょう。

今年こそ平和で充実した年にしていきましょう。



Principal Correspondence

笑う門には福来る

明けましておめでとうございます。お正月はお笑いの番組が多いのですが「笑う門には福来る」というのは本当だそうです。

英国ウォーリック大学のオズワルド教授は、700人の学生に10分間のコメディを見せたグループと、そうでないグループに二桁の足し算を解いてもらったら、コメディを見たグループは生産性が12%高くなったという結果が出ました。笑いは人を活性化させるのです(競争社会の歩き方・中公新書・大竹文雄)。大いに笑って過ごしたいものです。



さて、今年は米国で大統領選挙が行われます。

特に民主党は多様性を認める社会を掲げています。宗教、性別、人種、信条にかかわらず人を差別してはいけないことはとても大事です。ですが、リベラルの中には、いき過ぎと思われるものもあります。例えば米国のディズニーランドでは「メリークリスマス」は特定の宗教の言葉だからと他宗教の人に配慮して、メリークリスマスの掲示や使用をやめ「ハッピーホリデー！」に変えましたが、明らかにやり過ぎだと思います。

また、幼稚園や小学校での、男の子に男らしさを、女の子に女らしさを求める絵本(昔話に多い)を排除しようとするジェンダー教育の動きも、やりすぎの面があります。

世界中の子どもは、たいがい5~6歳になると自然と(不思議に強制されることなく)、男の子は競争するゲームや戦いごっこなどを好み、女の子はままごとやお店屋さんごっこを好みます。色も男の子は自然に青や、黒などを使い、女の子は多くが赤やピンクやパステルカラーを好みます。遺伝子に刷り込まれているのです。それはそれでよいのではないのでしょうか？

男の子にままごとを強制したり、女の子に黒い色を強制したりして男女差をなくそうとする運動はやりすぎです。ただし、ままごとを好む男の子や、戦いごっこを好む女の子を、いさめることをしてはならないと思います。それは個性であり自由です。

私は、日本では学校や園での男女混合名簿や、男女混合整列を強要しているのがわかりません。別に分けても何の問題もありませんし、効率的です。数千年もやってきたことで、それは差別や不平等とは思いません。また私立の幼小中高校はほとんど採用していません。

多様性(diversity)は大事ですが、ヨーロッパや日本は米国ほど極端ではなく、じっくりと歩んでいるように思います。

変化を恐れることはありませんが、本質を一つ一つ確かめて決定していきたいものです。

